

マイクロセービングを通じた収入向上と民族和解のプロジェクト近況報告

ARC がルワンダの現地 NGO の ARTCF(ルワンダ女性クリスチャン労働者協会)がルワンダの農村で行っている「マイクロセービングを通じた収入向上と民族和解プロジェクト」の近況報告です！今日はこのプロジェクトで「人生が変わった！」と語ってくれた、クラリッセ・ニラポンガさんのお話です。



クラリッセさん(35)はマイクロセービング(小規模貯蓄)のグループの一つである「INTAMBWE」のメンバーです。彼女は4人の子どもの持つ母親です。彼女は、小学校は卒業しましたが、その後には中等学校に進学する機会を持たず、20歳で結婚しました。INTAMBWEに参加するまでは農業とニットづくりをしていました。グループに参加してから彼女は、マイクロセービングからの資金をもとに、ニットに刺繍をして販売する仕事を始めました。並行して、ARTCF(ARCの現地協力団体)のスタッフは、彼女に識字やビジネスの研修を施しています。

その後彼女は、3頭のヤギと1頭の豚を飼育したり、農地を購入することができました。「私の人生は変わったことを実感します。以前は畑の肥料すら得られないほど貧しかったけど、グループからの支援のおかげです。そして貯蓄のことや和解のことなど様々なことを学ぶこともできています」と彼女は言います。彼女はこれから、自分の子どもたちの将来について思いを描いています。「これからもマイクロセービングのグループに参加していきます。そして農業を近代的なものにし、家畜を殖やし、自分のニットの商売を広げて、子どもたちが将来よりよい生活ができるようにしたいと思います。」——彼女の夢は膨らんでいきます。

彼女は小学校の頃に、ルワンダで起きたジェノサイドを体験した世代になります。きっとその幼い瞳に、言葉では言い表せないほどの凄惨な状況を焼き付けたのでしょう。ルワンダではそのような経験をした人たちの多くが、23年たった今でも、何かのはずみでトラウマがよびさまされたり、悪夢にうなされたりしています。加害者やその家族とは関わりたくないと思っている人もいます。過去にとらわれたままです。それでもこのプロジェクトを通じて、クラリッセさんのように未来に目を向けることができた人もいます。これからもこのプロジェクトへのご協力をお願いいたします！

ARC マイクロセービングを通じた収入向上と民族和解のプロジェクトへご協力ください♪

☆ お近くの郵便局(ATM)から 郵便振替口座 00250-2-57833 (口座名義人「アフリカ平和再建委員会」)

ルワンダ留学体験記(2) 山本優希(立教大学社会学部4年)

ARCは日本とルワンダの草の根の交流をサポートすることも活動の一つの柱としております。日本の人たちがルワンダをおとずれ、ルワンダの平和再建の様子を知ってもらうことで、ジェノサイドだけではないルワンダの様々な姿を知ってもらいたいと思っています。現在ルワンダに留学している山本優希さんも、留学に先立ちARCを訪問してくれました。山本さんのルワンダ留学体験記の第2回です！

こんにちは！立教大学社会学部4年で現在ルワンダのPIASSに留学中の山本優希です。今回は9月から私が関わっている女性たちのプロジェクトについてお話します。この女性グループはルワンダで和解を促進する活動をしているREACHという団体によってつくられたもので、ジェノサイドの加害者の妻と被害者が一緒にグループで活動することで和解を促すことが目的とされています。これまでお花畑をつくり、その花を売って収益を得る活動や、

ジェノサイド追悼式への共同での参加、トラウマヒーリングのワークショップなど様々な活動を行ってきました。9月から始まったプロジェクトは、この女性たちのグループを女性組合として成立させるべく、その足掛けとなる資金集めとして始められたものです。その名もブックカバーづくりです。

ブックカバーづくりは意外にも工程が多く、初期のころは難航を極めました。布に線を書き、その線上を切るという作業がある

のですが、まずそれができない。言葉も思うように通じない。人の話を聞かないで勝手に進めてしまい、結局は失敗する。私がいまんな当たり前にできると思っていた常識は、ここでは通用しませんでした。その後は、ハサミの使い方や線をまっすぐ書く方法を教え、繰り返し練習を行いました。今では最初の頃からは想像できなかったクオリティのブックカバーを生産できています。さらに、彼女たちの吸収能力とやる気は目を見張るものがあります。

また、グループの目的である和解についてですが、私はこのプロジェクトに関わる前はルワンダの和解は表面的なもので、心の奥底にはお互いに嫌悪感、憎しみが隠れているに違いない、そう思っていました。このグループの人々もそうだろうな、と。なぜなら、自分の立場に置き換えて考えてみた時に、自分の家族を殺した人の身内と共同で何かをするのは、たとえその活動が生産的で利益が生まれるものであったとしても、受け入れることは絶対に無理であると感じたからです。

もちろん、今までも女性たちの活動には関わってきました。しかし、それは何か大きなイベントがあった時のみで、こんなに密接に関わったことは初めてです。約2か月間、毎週女性たちと一緒に活動することで、私自身もこの人たちと真摯に、誠実に関わってこなかったのだなということを痛感しました。彼女たちと表

面的な付き合いだったから、私にも彼女たちの関係性の表面的な部分しか見えなかったのです。大きなイベントの時に会う女性グループ。名前も知らない彼女たち。顔すらうろ覚え。そんな感じだったと思います。前のレポートでお話した通り、私はルワンダ

の和解に興味があり、ルワンダを留学先に選びました。それなのに、結局、私は彼女たちを知ろうと関係をつくっていくのではなく、彼女たちを和解が進められているかを測る研究対象としかみていませんでした。

しかし、これまで2か月一緒に活動したことによって、見ていなかった彼女たちの関係性を目の当たりにしました。布を切るのが苦手な人がいるときは、得意な人が手伝って一緒に仕事をする光景。

神のご加護がありますようにとハグを交えてのあいさつ。活動の後、楽しそうに話しながら帰っていく姿。彼女たちは被害者と加害者の妻でした。私はルワンダに和解の進み具合を勉強しに来たにも関わらず、心のどこかでステレオタイプを持ち、和解なんて絶対に無理というスタンスからしか見ていませんでした。当たり前ですが、ルワンダ中の被害者全員が相手を赦し、関係を修復できるわけではありません。今でも赦したくても、赦せず、平穏ではない暮らしを送っている人はたくさんいます。しかし、徐々に関係を修復して、和解に近づいている人がいるという事実も、私がここに来て学んだようにみなさんにも知って頂きたいです。



山本さん

ARCルワンダ子ども支援基金 ご寄付へのお礼が変わりました

ARC ルワンダ子ども支援基金では、日本の皆様のご寄付により、2002 年以来、ジェノサイドやエイズで親を亡くしたり、貧困状態にあるルワンダの小学生たちの就学支援を行ってきました。これまでは子どもたちの絵手紙をお送りしてきましたが、これからはサポートを受けている子どもたちの写真とメッセージをお送りさせていただきます！メッセージには日本語訳をつけてお送りいたします。これからも ARC 子ども支援基金をよろしくお願いいたします！



ARC ルワンダ子ども支援基金へご協力ください♪

- ☆ お近くの郵便局(ATM)から郵便振替口座 00250-2-57833(口座名義人「アフリカ平和再建委員会」)
- ☆ これまでと同じく一口 8000 円でよろしくお願いいたします♪(一口につき絵手紙を一枚お贈りさせていただきます)



アフリカ平和再建委員会

Africa Reconciliation Committee: ARC-JAPAN

〒160-0004 東京都新宿区四谷 4-6-1 四谷サンハイツ511 号室 Tel./FAX: 03-3351-0892

E-mail: headoffice@arc-japan.org ホームページ <http://www.arc-japan.org>



ツイッター アフリカの紛争と平和に関するイベントや情報の発信をしています！

@ArcJapanNews どんどんフォローしてください！



フェイスブック 日頃の ARC の様子やプロジェクトの近況、アフリカ関連のイベントや情報の発信をしています！

【ARC ページ】 <https://www.facebook.com/ARCJAPAN/> “いいね”、“シェア”をお願いいたします。